

南九州の墨書土器

鹿児島県内では、現在までに2,000点を越す^{ぼくしよ}墨書土器や^{こくしよ}刻書土器がみつかっています。他の県では8世紀代に文字が書かれるのが多いのに対し、鹿児島では9世紀から10世紀に墨書土器が多いことが^{してき}指摘されています。

文献史料が^{だんぺんてき}断片的にしか残っていない時期ですし、誰でも文字として記録することが出来なかった時代ですので、遺跡で出土する文字資料は貴重なものです。

今回は2つの遺跡しか紹介しませんが、それでも1,100年前の地域の様子が浮かび上がってきます。